

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

し てい ぶん か ざい し せき

指定文化財(史跡)

こうじょうかん
興讓館

新高総早倉矢
見梁社島敷掛
市市市町市町

井原市

浅里笠
口庄岡
市町市



場所

いばらしにしえ ぼらちよう
・井原市西江原町



時代

かえい
・嘉永6(1853)年



指定年月日

しやうわ
・昭和34(1959)年
3月27日



所有

がっ こう ほう じん こうじょうかん
・学校法人興讓館



この史跡について

興讓館は、庶民の子どもたちの教育を目的として、当地の領主一橋家の代官友山勝治が西江原領内に、嘉永6(1853)年、漢学者阪谷朗廬を招いて創立した郷校です。

校名の由来は、四書の『大学』の、「一家仁なれば一国仁に興り、一家讓なれば一国讓に興る」からとられました。創設当時の姿をとどめているのは、講堂と校門、そして阪谷朗廬お手植えと伝えられる紅梅です。

講堂(書齋付)は、嘉永6(1853)年に建てられました。元は藁葺きであったものを、安政6(1859)年に現在のような瓦葺きとなりました。建坪25.5坪(書齋は4.5坪)本瓦葺き平屋建てで、平成7・8年に保存修理を行い、現在は資料を展示し公開しています。校門は棧瓦葺きで、初代館長と親交のあった渋沢栄一の揮毫した扁額がかかっています。校門近くの紅梅は、樹齢約150年で、根元の近くから東西に分かれ、毎年春には美しい花を咲かせています。

阪谷朗廬は、井原市美星町に生まれた漢学者で、江戸で学び、井原市芳井町で桜溪塾を開いていました。その後、興讓館に招かれ、領内の子弟の教育を行いました。朗廬の名声は各地に広がり、遠くは九州地方からの入門者もありました。その後、広島藩、明治政府に招かれ要職を務めるとともに、森有礼、福沢諭吉の主催する明六社に唯一の漢学者として参加しました。